

1. 評価結果概要表

【評価実施概要】

事業所番号	4070600962		
法人名	株式会社 エルダースービス		
事業所名	グループホーム 高見		
所在地 (電話番号)	福岡県北九州市八幡東区高見5丁目2番1号 (電話) 093-651-1275		
評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成22年3月30日	評価確定日	平成22年5月31日

【情報提供票より】(平成22年3月8日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成17年8月1日		
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計	9 人
職員数	9 人	常勤 8人, 非常勤 1人, 常勤換算 9人	

(2) 建物概要

建物構造	木造スレート瓦葺平屋建て 1階建て		
------	----------------------	--	--

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	50,000 円	その他の経費(月額)	(光熱水費) 20,000円	
敷金	有 (100,000円)			
保証金の有無 (入居一時金含む)	無		有りの場合 償却の有無	有/無
食材料費	朝食	400 円	昼食	500 円
	夕食	500 円	おやつ	100 円
	または1日当たり 円			

(4) 利用者の概要 (3月8日現在)

利用者人数	9 名	男性	1 名	女性	8 名
要介護1	3 名	要介護2	3 名		
要介護3	1 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 82 歳	最低	74 歳	最高	94 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	たつのおとしごクリニック・藤崎歯科医院
---------	---------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

広大な中央公園に隣接する自然に恵まれた環境の中に「グループホーム高見」は位置しており、周辺には公共施設(体育館・美術館・到津の森公園等)や大型商業施設が点在している。中学校のグラウンドに接し、盲学校や保育園にも近く、設立以来、運営推進会議等を通じて、地域の方々や生徒・保育園児との交流を深めており、毎月、盲学校中学部生徒たちが訪れ、楽器演奏や歌・ゲーム等を楽しんでいる。認知症介護の経験豊かな管理者・職員は、入居者一人ひとりの思いや気持ちをくみ取りながら考察を重ね、介護計画に明文化することで共通認識を持ちながら寄り添う介護を実践しており、「目配り・気配り・思いやり」をモットーとして、一人ひとりのその人らしい暮らしの実現に向けて、日々専門職としての研鑽を積んでいる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)
	前回評価以降、介護職員と看護師の情報交換を密にし、介護日誌に看護師の記録を残す等、課題の共有に努めている。
重点項目	今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)
	今回の自己評価作成にあたっては、管理者・職員で日々のサービス提供を振り返りながら作成している。
重点項目	運営推進会議の主な検討内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4,5,6)
	2ヶ月に1回、定期的開催されている運営推進会議には、地域の婦人会役員や相談役・民生委員・地域包括支援センター職員とともに、入居者や家族、職員等がその時期の状況に応じて出席している。火災被害の情報から災害対策が議題となったり、疾患について質問から急遽勉強会に開かれた事もある。また地域から猪や蛇についての出没情報を受け、散歩中の注意をアドバイスしてもらうこともある。今後職員も毎回会議に出席し、会議の意義を浸透させていく意向である。
重点項目	家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部8,9)
	玄関に投書箱を設置している。年1回、家族会を開催し、家族同士や家族と職員との親睦の機会としている。運営推進会議への積極的な参加を促したり、家族アンケートを実施する等、積極的に家族の意見を収集しており、運営に反映させるよう努めている。
重点項目	日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)
重点項目	自治会に加入しており、入居者とともに回覧板を隣家に届けている。回覧板から、地域行事やお祭り等の情報を得て、入居者の方々が喜ぶ相撲大会や高見祭り・文化祭等に参加している。また近接する盲学校生徒による演奏会を觀賞したり、保育園運動会に参加し、交流を深めている。散歩の途中等、日常の中での挨拶や会話の機会を大切にしており、桜の開花情報等も電話で知らせてくれる。

2. 評価結果(詳細)

(部分は重点項目です)

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
.理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	地域密着型サービスとしての理念	グループホーム高見の理念として「私達ご利用者が心から満足できる地域に密着した介護サービスを提供します。」と掲げており、入居者一人ひとりの、「自分らしさ」の実現に向けて、「気づきと思いやり」の精神で支援していくことを、運営方針として示している。		
		地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている			
2	2	理念の共有と日々の取り組み	管理者・職員は、毎朝のミーティングや定例会において、理念を確認すべく唱和を行っている。日常的なサービス提供の場面においても、対応や声かけについて、理念や方針に立ち返りながら確認しあっている。		
		管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる			
3	5	地域とのつきあい	自治会に加入しており、入居者とともに回覧板を隣家に届けている。回覧板から、地域行事やお祭り等の情報を得て、入居者の方々が喜ぶ相撲大会や高見祭り・文化祭等に参加している。また近接する盲学校生徒による演奏会を觀賞したり、保育園運動会に参加し、交流を深めている。散歩の途中等、日常の中での挨拶や会話の機会を大切にしており、桜の開花情報等も電話で知らせてくれる。		地域の方から桜の開花情報をもらったり、いのししやへびの出没情報をもらい散歩中の注意をアドバイスしてもらうこともあり、自然な形で地域に溶け込んでいることが伝わる。
		事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている			
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	評価の意義の理解と活用	今回の自己評価作成にあたっては、管理者・職員で日々のサービス提供を振り返りながら作成している。前回評価以降、日々の記録をより充実させることにより、入居者の思いや願いに寄り添えるよう取り組んでいる。		
		運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる			
5	8	運営推進会議を活かした取り組み	2ヶ月に1回、定期的開催されている運営推進会議には、地域の婦人会役員や相談役・民生委員・地域包括支援センター職員とともに、入居者や家族、職員等がその時々状況に応じて出席している。火災被害の情報から災害対策が議題となったり、疾患についての質問から急遽勉強会となった事もある。今後職員も毎回会議に出席し、会議の意義を浸透させていく意向である。		
		運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている			

グループホーム 高見

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	市町村との連携	手続きや報告等に行政窓口に出向いた際には、その都度情報の共有や相談を行っている。家族介護教室等の市町村事業を受託した実績もあり、また平成18年度より、月2回、介護サービス相談員の受け入れを行っている。		
		事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる			
7	10	権利擁護に関する制度の理解と活用	管理者・職員は、日常生活自立支援事業に関するセミナーに参加し、必要となった場合には活用に向けての支援が行えるよう、情報を共有している。以前、権利擁護に関する制度を活用していた方もおり、支援の過程において学んだことも多い。今後は、家族や地域に向けての情報発信にも期待したい。		
		管理者や職員は、地域福祉権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人には、それらを活用できるよう支援している。			
4. 理念を実践するための体制					
8	14	家族等への報告	毎月、各担当職員が生活状況や健康状態について手紙を書き、金銭管理・利用明細書とともに送付している。家族来訪時にはコミュニケーションを深めるよう努めている。		
		事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている			
9	15	運営に関する家族等意見の反映	玄関に投書箱を設置している。年1回、家族会を開催し、家族同士や家族と職員との親睦の機会としている。運営推進会議への積極的な参加を促したり、家族アンケートを実施する等、積極的に家族の意見を収集しており、運営に反映させるよう努めている。		
		家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている			
10	18	職員の異動等による影響への配慮	ケアの基本方針に基づき、職員によってケアの内容に大きな変化が出ないように取り組んでいる。法人として多様な福祉サービスを展開しており、新しい視点として、また職員のスキルアップやバランス等に配慮して異動が行われることもあるが、引継ぎ期間やベテラン職員によるフォローにより、入居者へのダメージとならないよう配慮している。		
		運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている			
5. 人材の育成と支援					
11	19	人権の尊重	職員の採用にあたっては、年齢や性別、偏見等にとらわれないようにしている。採用後は得意分野を活かして、役割意識を持ってもらい、責任感のある職員に育成していきたいと考えている。3ヶ月に1回、個人面談を行い意見や要望を聞きながら、個々の能力の発揮や自己実現に向けての支援を行っている。		
		法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している。			

グループホーム 高見

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
12	20	人権教育・啓発活動	年間研修計画には、「人権学習及び権利擁護」や「身体拘束及び高齢者虐待」等が組み込まれており、職員の参加を義務付けている。また認知症に関する研修に参加し、知識を深めながら、入居者の人権に対する意識を高めている。		
		法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育・啓発活動に取り組んでいる。			
13	21	職員を育てる取り組み	法人として年間研修計画を作成し、法人内のグループホーム合同や各事業所での研修を実施している。また外部研修についての情報を把握し、計画的な受講と研修報告・伝達研修により、全体でのスキルアップに努めている。		
		運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている			
14	22	同業者との交流を通じた向上	法人内には4箇所のグループホームがあり、合同研修や相互訪問、情報の共有を行っている。また地域のグループホームとの交流・情報交換等も行われている。これまでの実績や経験を活かしていくためにも、地域のネットワークづくりヘリダーシップの発揮に期待します。		
		運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている			
2. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
2. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
15	28	馴染みながらのサービス利用	入居にあたっては、本人・家族から現状や希望・要望等の情報を可能な限り収集し、それらに基づき暫定的に介護計画が立案され、修正を重ねている。新しい環境に馴染めるよう、使い慣れた食器や寝具・家具を持ち込んでもらい、家族の宿泊や電話・面会等でその関係性を維持していくよう配慮している。		
		本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気や徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している			
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
16	29	本人と共に過ごし支えあう関係	入居者の方々との会話や傾聴する機会を重ね、生活歴や思い出を聴きながら、学ぶ事や共感する事が多い。入居者・職員で協力しながら、共に達成感を味わったり、教えてもらいながら過ごす場面を大切にしている。		細かな観察と考察により、言葉には出されない思いや負の感情を日々の記録に残している。自分だったらどうだろうかと考えながら、共感することも多くあり、日常の支援に結びつけている。
		職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている			

グループホーム 高見

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
17	35	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居時には、きめ細かに情報が収集され、「生活と安全のカルテ」に本人・家族や関係者からの情報が記載されており、一人ひとりの全体像の把握に努めている。また日々のミーティングシートに細やかな変化や気付きが記録されている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
18	38	チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人や家族の要望を踏まえ、各担当職員や関係者とのケアカンファレンスを行い、介護計画を作成している。「解決すべき課題」を分析し、具体的に行動しやすいサービス内容が示されている。介護計画は個人ファイルの表紙の裏にも貼り、日々の支援につなげている。		
19	39	現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎月、モニタリングとケースカンファレンスを実施し、評価・見直しが行なわれている。また入居間もない場合や、入退院等による状況変化時には、家族や医療関係者との連携を図りながら計画の変更を行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)					
20	41	事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	入居者・家族の状況にあわせて、個別の買い物、通院の介助や夜間の入院時の付き添い等に対応している。また家族の宿泊等、その時々々の状況に応じた柔軟な対応を行っている。入院時には頻繁に面会に出かけ、関係性の継続に配慮するとともに、治療方針や退院までの計画を話し合うカンファレンスにも出席している。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働					
21	45	かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	北九州市ものわすれ外来協力医療機関であるかかりつけ医との連携により、隔週の往診及び毎週の看護師の訪問があり、本人・家族の希望する病院受診の際にも、連携を図り適切な医療受診となるよう支援している。		

グループホーム 高見

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	49	重度化や終末期に向けた方針の共有	入居にあたり、かかりつけ医・管理者立会いのもと、「重度化した場合における対応と指針」の説明が行なわれており、家族の意向確認等、方針の共有が図られている。また「看取りに関する指針」及び「同意書」を整備し、本人・家族の意向を大切にしながら、関係者間での話し合いを重ねている。		
		重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している			
. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1) 一人ひとりの尊重					
23	52	プライバシーの確保の徹底	家族の協力も得ながら、一人ひとりの呼び名を検討している。また排泄時の声かけ等には、特に配慮するよう努めている。プライバシー確保に関する多面的な研修が実施されている。		
		一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない			
24	54	日々のその人らしい暮らし	一人ひとりの希望やペースを優先した日々の暮らしとなるよう努めている。入居時に作成される「生活と安全のカルテ」にて生活習慣等を把握し、また行動の理由についても職員全員で本人本位の考察を重ねている。起床時間にあわせた食事の提供や、自己選択・自己決定の場面を大切に支援している。		
		職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している			
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
25	56	食事を楽しむことのできる支援	専任の調理担当者により、嗜好や状況に配慮された食事が提供されており、食事の準備や後片付け等に力を発揮してもらっている。その時々希望により、おにぎりを持って、ウッドデッキで食事を楽しむこともある。		
		食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている			
26	59	入浴を楽しむことができる支援	一人ひとりの希望や状況、生活習慣等に合わせて、入浴日や時間帯に柔軟な対応を行っている。拒否する方にも、対応等を工夫しながら、無理強いとならないよう配慮している。		
		曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している			

グループホーム 高見

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
27	61	役割、楽しみごと、気晴らしの支援	掃除や洗濯物たたみ、食事の後片付け等に力を発揮してもらい、また得意の編み物をしながら過ごしている方の姿もあった。一人ひとりの生活歴や趣味の把握に努めながら、日々の暮らしの中で興味を持ったり、楽しむことができることを見出せるよう支援している。		
		張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている			
28	63	日常的な外出支援	緑の多く残る、恵まれた周辺環境の中にあり、天気の良い日は毎日のように散歩に出かけている。また公共施設や大型商業施設にも近く、買い物やドライブ等にも出かけている。外出が困難な方や希望されない方も、外衣を着てウッドデッキに出て、隣接する中学校のグラウンドでの授業やクラブ活動の様子を見ながら、外気浴を楽しめるよう支援している。		
		事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している			
29	68	鍵をかけないケアの実践	管理者・職員は、鍵をかけることの弊害を理解しており、日中は玄関・居室等の施錠は行っていない。玄関ドアが開くと音楽が流れるようになっており、所在確認や心理状態・行動傾向の把握により、抑制のない暮らしの実践に努めている。		
		運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる			
30	73	災害対策	年2回、防災訓練を実施している。運営推進会議でもホームの具体的な避難方法を説明し、協力を働きかけている。また積雪や凍結時の職員の確保等、様々な状況を想定して検討が行われている。		
		火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている			
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
31	79	栄養摂取や水分確保の支援	法人の栄養士による栄養バランス等に配慮された献立が作成されており、食事や水分の摂取量を把握・記録している。定期的な体重測定や各検査を行いながら医療関係者との連携を図り、健康管理を行っている。一人ひとりの状態に応じて、食事形態等に柔軟に対応している。		
		食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている			

グループホーム 高見

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
32	83	居心地のよい共用空間づくり	リビングの大きな窓からウッドデッキ越しに、隣接する中学校のグラウンドの様子が伝わり、元気な声が聞こえてくる。毎月行われている生け花教室では、入居者の方々それぞれが自由に季節の花を活け、各所に飾られている。		
		共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている			
33	85	居心地よく過ごせる居室の配慮	各居室は大きく窓が設けられており、自然光が差し込む明るい空間となっている。自宅から、箆箆やベッド、仏壇等が持ち込まれており、使いやすいよう工夫しながらレイアウトが決められている。		
		居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている			